

「正の強化」を目的としたペットとその家族の支援の在り方について
－ しつけでもなく，トレーニングでもなく，行動修正でもなく －

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
障害・行動分析クラスター
高山 仁志

ドッグトレーナーとは、「飼い主とペットであるイヌ」を支援する「対人援助職」である(高山, 2010)。イヌと飼い主の「正の強化で維持される行動の成立(望月, 2001)」がそのミッションであり、それを成立させるための指針が「正の強化を手段から目的へ」(望月, 1995)というひとつの実践哲学である。本研究は「正の強化を手段から目的へ」という哲学に基づいたイヌのしつけ事例を3例紹介し、「正の強化を手段から目的へ」という哲学の実践に必要な条件を明らかにし、新しいドッグトレーナーのあり方について論じる。

事例1では「飼い主の帰宅時に飛びつく」という問題に、イヌとロープで遊ぶという行動を成立させた。事例2では子どもに噛みつくという問題に、イヌには食べ物を食べるという行動を成立させ、子どもにはスムーズに部屋を移動できるという行動を成立させた。事例3では散歩が苦手になったイヌに対し、イヌが楽しく歩ける場所を探すことで、イヌの散歩をするという行動を成立させた。いずれも、イヌと飼い主双方が正の強化を受けられる随伴性を生み出すような状況を、トレーナーが作り出したという点で共通している。この「イヌと飼い主双方が正の強化を受けることができる随伴性を生み出すような状況を作る」ことこそが、「正の強化を手段から目的へ」という哲学の実践に必要な条件であり、新しいドッグトレーナーのあり方といえる。